



御船とともに市内を練り歩く

9/4 穂高神社・子ども船奉納

穂高神社・子供祭りが9月4日に行われました。当日は、お囃子の音に合わせて地域の子どもなどが御船を引いて市内を練り歩いた後、3艘の子ども船が境内に奉納されました。御船を引いた菊池一樹くん（穂高南小3年）は「御船は重くて大変だったけれど、みんなで町中を引き歩くのは楽しかったです」と話してくれました。

27日には穂高神社例大祭が行われ、大人船2艘による激しいぶつかり合いが行われます。



特産リンゴのご当地グルメ

9/6 安曇野林檎ナポリタン試食会

市の特産品の一つリンゴを使ったご当地グルメ「安曇野林檎ナポリタン」の試食会が9月6日、市役所で開催されました。安曇野林檎ナポリタンは、市、松本大学、安曇野調理師会などが連携し考案したもので、リンゴのさわやかな酸味とやさしい甘みの特徴です。この日は、市内飲食店5店がそれぞれにアレンジを加えた自慢の一皿を持ち寄り、試食や意見交換をしました。4シーズン目を迎える本年は、参加店舗が2店舗増え、市内外12店舗で提供されます。

幽玄な能の世界に人々を誘う

8/20 第26回信州安曇野能楽鑑賞会

第26回信州安曇野能楽鑑賞会（実行委員会主催）が8月20日、豊科公民館大ホールで行われました。この鑑賞会は、名誉市民である能楽師の故青木祥二郎さんの業績を顕彰し、能を通じて国内一流の伝統芸能に触れてもらおうと、旧明科町時代から行われています。

当日は、舞囃子「天鼓」、能「融」、狂言「鐘の音」、能「紅葉狩」などが上演され、約560人の観客は、幽玄な能の世界を堪能しました。

能「融」では主宰の青木道喜さんがかつて栄華を誇った貴族「融大臣」の霊を演じ、月明かりの下で幻想的に舞う姿を表現し、観客を魅了しました。

また、開演に先立ち、市内の小中学生、高校生の皆さんによる仕舞・連吟が披露されました。

鑑賞会は例年、明科龍門湖公園で「新能」として開催していますが、本年は隣接する旧明科公民館解体工事準備のため屋内会場に移して行われました。



福岡市東区：クリアボート体験（右上） 歓迎レセプションでの記念撮影（右下）
神奈川真鶴町：野菜の収穫体験（左上）、歓迎レセプションで名刺交換（左下）

夏休み 安曇野で交流を深める

8/2・8/10 友好交流都市の小中学生が訪問

友好交流都市との青少年交流事業として、福岡市東区と神奈川県真鶴町から子どもたちが安曇野市を訪れ、市内の子どもたちと交流を深めました。

福岡市東区からは8月2日から4日間の日程で10人の小中学生が訪れました。市役所で市内の小中学生7人が出迎えた後、記念品の交換などが行われました。滞在期間中、子どもたちは豊科郷土博物館など市内各所を巡ったほか、クリアボート体験などをしました。

また、真鶴町からは8月10日と11日の2日間、27人の小学生が訪れました。市役所での歓迎レセプションでは市内の小学生19人と手作りの名刺を交換。その後、野菜の収穫体験をしたり、堀金烏川の啼鳥山荘でバーベキュー、キャンプファイヤーを一緒に楽しんだりして、安曇野の自然を満喫しました。



迫力あるプレーでファンを魅了

8/27 プレイブウォリアーズ・プレシーズンゲーム

千曲市をホームタウンに今シーズンからBリーグに所属するプロバスケットボールチーム「信州プレイブウォリアーズ」のプレシーズンゲーム（対富山グラウジーズ戦）が8月27日、穂高総合体育館で開催されました。当日は、約1,000人が観戦。試合は、54対92で富山が勝利し、残念ながらチームは白星とはなりませんでしたが、目の前で繰り広げられるプロ選手の迫力あるプレーと、華やかな会場の演出に大きな歓声が送られていました。



堰がもたらす恵みを再認識

8/1 農業用水シンポジウム

8月1日が「水の日」に制定されたのに合わせて、農業用水の歴史と役割を振り返り、今後の維持保全を考える「農業用水シンポジウム」（農林水産省関東農政局主催）が8月1日、豊科南穂高の安曇野スイス村サンモリッツで行われました。

当日は、農業、行政の関係者や市民約500人が出席。基調講演では、県立歴史館長の笹本正治さんが、安曇野の堰の歴史を振り返り、先人の努力と技術の高さにより、数々の堰が開削され、肥沃な農地と農村景観をもたらしたと紹介しました。また、パネルディスカッションでは、豊科南小学校の拾ヶ堰の清掃活動も紹介され、次代へ向けた維持保全の必要性を会場に呼び掛けました。